様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 １９ 日現在

機関番号：３２２０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１１９６１

研究課題名（和文）急性期病院における看護師のエイジング・センシティブ・ケア向上教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of an educational program for improving aging-sensitive-care for nurses in acute care hospitals

研究代表者
吉村　惠美子（Yoshimura, Emiko）

国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・教授

研究者番号：１０４１３１６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：高齢者は入院によって有害事象を引き起こしやすく，看護師は高齢者特有の問題を的確にアセスメントすることが重要である．本研究はこのアセスメント力向上を目指した教育プログラムを開発し有効性を検討した．
専門看護師へのインタビューから，アセスメントの5つの構成要素を明らかにし，現任教育担当者のグループインタビューから，効果的な教育方法，3つの方略を導き出した．
教育プログラムは①専門看護師による講義，②転倒転落，せん妄など有害事象6項目に関する自己学習，③事例検討で構成した．その結果，高齢者看護の基本的知識正答数，アセスメント過程，すなわち，①状況の認知能力，②具体的判断能力，③実践能力が有意に上昇した．

研究成果の学術的意義や社会的意義
超高齢社会の我が国において，一般病院では65歳以上の高齢者の入院率は7割を超えている．急性期病院では高度医療の実施，入院期間の短縮などにより，有害事象が発生し，高齢患者にとって入院の弊害が大きい．一方，急性期病院の看護師は高齢者の病状と加齢変化，個別の生活から起こる看護問題を的確にアセスメントすることの困難性を抱えており，アセスメント力の向上が必要である．
本研究は，①看護師の高齢患者に対する看護アセスメントのスキルの獲得が期待できる，②高齢患者の特性に配慮した高齢者中心の視点を獲得でき，老年看護実践の質の向上に寄与できる，③当該分野の日本の学術研究はほとんど見当たらず，研究の意義は大きい．

研究成果の概要（英文）：Elderly patients are more vulnerable to various adverse effects due to hospitalization. Therefore, it is important for nurses to accurately assess physical changes due to aging. In this study, we developed an educational program aimed at improving the assessment ability of nurses working in acute care hospitals and examined its effectiveness.
From an interview survey with Certified Nurses, we have identified the five components of the assessment. In addition, in a group interview with current educators, we found effective teaching methods.
The educational program consists of (1) lectures by a Certified Nurse Specialist, (2) self-learning about 6 adverse events such as falls and delirium, and (3) case studies. As a result of examining the effects, the number of correct answers to the basic knowledge confirmation test was increased, and it was revealed that (1) cognitive ability, (2) specific judgment ability, and (3) practical ability required for assessment were significantly increased.

研究分野：老年看護学

キーワード：老年看護　看護アセスメント　急性期病院　看護師教育プログラム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高齢者は入院により，「認知の混乱」，「せん妄」などの発症頻度が高く，様々な治療による有害反応も強く現れることも多い．急性期病院の看護師は，高齢患者に対する病状の治癒過程の遷延化や合併症を予防し，意思を尊重しながら，入院生活を支えていくことが必要とされている．しかし，急性期病院における高度医療の推進，安全管理の強化，在院日数の短縮化，看護の人材不足といった現状の中で，個別的で質の高いケアを提供することは，容易なことではない．

米国では，急性期の高齢患者に対する看護師の教育プログラムとして，ニューヨーク大学看護学部のハートフォード研究所によって NICHE プログラム（Nurse Improving Care for Health System Elders：高齢者のための看護師の医療やケアを向上させる包括的なプログラム）等が開発され，その効果が報告されている．しかし，我が国では，せん妄予防，褥瘡予防など部分的な教育プログラムに留まっており，包括的な教育プログラムの開発研究に至っていない．

高齢者の包括的ケアアプローチとして「エイジング・センシティブ・ケア;aging sensitive care＝いわゆる高齢者中心のケア」[1)]が提唱されており，看護師の高齢患者の加齢によるニーズへの認識を高めていくことが重要とされている．我が国独自のニーズの特徴を明確化し，教育プログラムの開発をしていく必要がある．

2．研究の目的

1）教育プログラムの開発

プログラムの教育目標，内容，方法を検討し，プログラムを作成する．

2）作成した教育プログラムを実施し，その有効性について検討する．

3．研究の方法

1）教育プログラムの開発

（1）第 1 段階：教育プログラムの目標，内容の検討

筆者らが老人看護専門看護師を対象に調査した「急性期病院に入院している高齢患者のアセスメントの視点」と，American Association of Colleges of Nursing の教育プログラム「Adult-Gerontology Acute Care Nurse Practitioner Competencies」の「Assessment of Health Status」の指標 [2)]を比較し，その内容の妥当性を検討した．

(2)第 2 段階：効果的な教育方法の検討

教育プログラムの目的を達成するため，現任看護師教育担当者によるグループインタビューを実施し，より効果的な教育方法を抽出した．対象者は，急性期病院において現任の教育担当をしている看護師 5 名とした．

データ収集はインタビューガイドに沿って実施し，インタビューの逐語記録と録画記録をデータとした．分析は①インタビューのテーマに沿って抽出し，その意味内容を読み取り≪重要項目≫とした．② ≪重要項目≫の類似した性質を集約し，その性質を吟味しカテゴリー化した．

(3) 第 3 段階：具体的な教育プログラムの作成

第 1，2 段階で明らかになった教育目標，教育内容，教育方法を基に，文献検討を加えて，急性期病院における高齢患者の看護アセスメント力向上を目指した教育プログラムを作成した．

2）教育プログラム介入による有効性の検討

一施設における事前事後追跡テストというデザインにより 3 カ月間実施した．68 名の看護師を対象とし，ベースライン，プログラム終了時，終了後 3 カ月時点に次の調査を実施した．

(1) アセスメントの基礎となる基本知識：転倒転落，せん妄など 6 項目合計 30 問を調査し，1 問 1 点とし，正答数をカウントし，介入後の変化を比較した．

(2) アセスメント力の測定：看護師の自律性測定尺度 [3)]から，≪認知能力≫，≪実践能力≫，≪具体的判断能力≫，≪抽象的判断能力≫，≪自立的判断能力≫を測定し，介入後の変化を比較した．

(3) 看護師への高齢患者アセスメントに対する意識：高齢患者看護アセスメントの学習の必要性と関心の程度，高齢者看護に対する意欲についての 3 項目の質問を「かなりそう思う」～「全く思わない」の 5 リッカートへの記入を求め，その変化を比較した．

分析は対応のある多群の順位分類データの比較，フリードマン（Friedman）の検定を実施．有意差<0.05 以下でスティール・ドゥワス（Steel-Dwass）法による多重比較検定を実施した．

3）倫理的配慮

筆者らが所属する大学倫理審査委員会より承認を得て実施した．また，研究対象施設の倫理委員会より承認を受けた．研究対象者に対して，研究の趣旨と目的を口頭および文書にて説明し，研究協力の同意を得て実施した．

４．研究成果

1） 教育プログラムの開発 AACN の教育プログラム「Adult-Gerontology Acute Care Nurse Practitioner Competencies」の AHS の指標を比較し，その内容の妥当性を検討した．

(1) 筆者らが抽出した高齢患者のアセスメントの 5 つの構成要素を AHS の指標を比較した結果，類似性が確認され妥当であると判断した．筆者らが調査した看護師らは「患者-看護師関係」に関する視点に注視する特性が認められた．

(2) グループインタビューで語られた「高齢患者の看護アセスメント力向上に関する有効な教育方法」は，【動機づけの促進】，【患者理解の促進】，【思考過程の促進】，【組織的な取り組みの促進】の 4 カテゴリーであった．

(3) 更に文献検討を加味した結果，プログラム実施に対して①集団教育，②個別学習，③事例検

討の 3 つの戦略が必要と判断した．最終的なプログラムを表 1 に示した．

表 1　高齢患者の看護アセスメント力向上プログラムの概要

教育プログラムの学習の目的		
1 高齢者看護のアセスメントに関する知識とスキルを獲得し、個別性のあるアセスメントができるようになる 2 アセスメント力が向上することで、看護師の高齢者看護やアセスメント過程に対する関心や意欲が向上し、高齢患者の利益に資することができる		
行動目標		
1 高齢入院患者の看護アセスメントの特徴を説明できる 2 現時点での情報の中でアセスメントに結びつく情報を選択できる 3 その高齢患者の看護問題に関する不足情報を判断できる 4 その高齢患者のより良い看護計画立案のために必要なアセスメントを判断できる 5 高齢患者個々のニーズを最優先し、質の高い情報について考えることができる		
プログラム1＜講義＞ ➡	プログラム2＜学習カード＞ ➡	プログラム3＜事例検討＞
基礎知識の習得	知識を実践に活用	知識と体験の連動
行動目標 1 自己の高齢患者のアセスメント観について説明できる 2 高齢患者のアセスメントの特徴について説明できる 3 アセスメント過程の記載方法が説明できる 4 高齢者のニーズが最優先されることが説明できる	1 高齢患者に起こりやすい看護問題に関する必要な情報を選択できる 2 高齢患者に起こりやすい看護問題に関する不足な情報を挙げられる 3 高齢患者に起こりやすい看護問題に関してより良い看護計画を立案するための情報Ⅱについて挙げられる	1 実際の経験の中から高齢患者の看護アセスメントの事例について説明できる 2 他者からのフィードバックを受け、アセスメントの選択ができる 3 高齢患者のアセスメントの特徴について説明できる 4 高齢者のニーズが最優先されることが説明できる
方法 ・高齢患者看護アセスメントの現状の把握 ・高齢患者看護アセスメント視点の講義 ・リフレクションとアセスメントの方法の理解	・転倒・転落、せん妄、肺炎、排泄、低栄養、薬物動態に関する健康問題について小カードで学習 ・Q&Aスタイルで知識の確認 事例で学ぶ　　・テスト3問	・グループで発表する ・高齢患者看護アセスメントの特徴をフィードバックする ・アセスメントの活かし方についてシェアする

2）教育プログラム介入結果

(1) 研究対象者の概要

首都圏内の急性期病院（看護師配置基準 7 対 1）の看護師 68 名に調査を依頼，すべての量的質問肢に欠損値が無い 22 名（回答率 68.8%）を研究対象とした．対象者は男性 2 名（9.1%），女性 20 名（90.9%）で，全員が看護師であった．

(2) 高齢者看護の基本的知識に対する正答数の比較

多群比較検定を行った結果,「全体」の正答数と「転倒・転落」の正答数に対して,有意差($p<.05$)が認められた．更に多重比較検定を行った結果，「全体」で介入前－介入直後，介入前－介入 3 ヶ月後間で有意差（$p<.05$）が認められた．項目のうち「せん妄」の正答数が最も高く［5.0（4.0-5.0)］,「低栄養」［2.5（2.0-3.0)］,「薬剤」［3.0（2.0-4.0)］の正答数が低値であった．

(3) アセスメント力測定の比較

「看護師の自律性測定尺度」の項目全体について，多群比較検定を行った結果,「全体」,「認知能力」,「実践能力」の項目に対して有意差（$p<.05$）が認められ,「具体的判断能力」についても有意差（$p<.01$）が認められた．更に多重比較検定を行った結果,「全体」,「認知能力」,「実践能力」で介入前－介入 3 ヶ月後間で，有意差（$p<.05$）が認められた．また,「具体的判断能力」は，介入前－介入直後，介入前－介入 3 ヶ月後間で，有意差（$p<.05$）が認められた．

(4) 高齢患者の看護アセスメントに対する看護師の認識の比較

高齢患者の看護アセスメントに対する学習の必要性は「かなりそう思う」としている看護師は 81.8%と最も多く，関心は「かなりそう思う」が 40.9%であった．高齢者看護への意欲については「かなりそう思う」が 9.1%と低値を示していた．介入後は，高齢者看護の意欲に関して，ベースラインでは「あまり思わない」が 8.3%みられたが，介入後は 0 となり,「すこしはそう思う」が 10.4%上昇していたが，フリードマン検定を実施した結果，有意な差は認められなかった．

(5) 今後の課題として,「低栄養」,「薬剤」に関する看護アセスメントが低値であったことから，その対策を考えていく必要がある．また，多忙な急性期病院の看護師の教育プログラムとして，受講し易く，効率的な学習方法など急性期病院の特徴に合わせ検討していく必要がある．

参考文献

1) Boltz Marie (2007), Hospital nurses' perceptions of the geriatric care environment. New York University, ProQuest, UMI Dissertations Publishing, p162.

2) American Association of Colleges of Nursing (2012). Adult-Gerontology Acute Care Nurse Practitioner Competencies February 2012, 13-16. http://www.aacnnursing.org/ (平成 25 年 10 月 11 日取得)

3) 菊池昭江,原田唯司(1997).看護専門職における自律性に関する研究－基本的属性・内的特性との関連－,看護研究, 30(4),285-297.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 吉村惠美子，渡辺みどり	４．巻 24-2
２．論文標題 急性期病院における高齢患者の看護アセスメント教育プログラムの作成	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本看護福祉学会誌	６．最初と最後の頁 151-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉村惠美子	４．巻 22
２．論文標題 急性期病院の高齢患者に対する老人看護専門看護師のアセスメントの視点	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本看護福祉学会誌	６．最初と最後の頁 171-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉村惠美子，渡辺みどり	４．巻 －
２．論文標題 急性期病院における看護師の高齢者アセスメント力向上を目指した教育プログラムの有効性の検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本老年看護学学会誌	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 蔵谷範子,吉村惠美子,山田智美,照屋健作,矢代実希,相内恵津子
２．発表標題 急性期病院における高齢者看護アセスメント教育プログラムの検討 ～薬剤に関する自己学習DVDの開発～
３．学会等名 第20回神奈川看護学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 山田智美,照屋健作,矢代実希,相内恵津子,蔵谷範子,吉村惠美子
２．発表標題 急性期病院における看護師の エイジング・センシティブケア向上教育プログラムの開発Ⅰ　～高齢者アセスメントのための自己学習促進を目指したDVD教材の作成～
３．学会等名 第20回神奈川看護学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Emiko YOSHIMURA, Midori WATANABE, Tomomi YAMADA, Etuko AINAI,Noriko KURATANI, Ryouko KAIDA, Kensaku TERUYA
２．発表標題 Investigating Efficacy of Educational Program Intended for Improving Nursing Ability for Assessment of Elderly Patients at an Acute Hospital
３．学会等名 The 11th IAGG Asia / Oceania Regional Congress 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉村惠美子
２．発表標題 急性期病院における高齢患者看護アセスメント教育のより効果的な教育方法の検討
３．学会等名 日本看護学教育学会第27回学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉村惠美子，渡辺みどり
２．発表標題 急性期病院における高齢患者の看護アセスメント教育プログラムの教育目標と内容の検討 －Adult-Gerontology Acute Care Nurse Practitioner CompetenciesのAssessment of Health Status指標との比較－
３．学会等名 第31回日本看護福祉学会学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 相内恵津子，吉村惠美子
２．発表標題 急性期病院における高齢者看護アセスメント教育プログラムの検討～高齢者の肺炎に関する自己学習DVDの開発～
３．学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山田　智美 (YAMADA TOMOMI) (70757583)	国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・講師 (32206)	
研究分担者	照屋　健作 (TERUYA KENSAKU) (30751599)	帝京平成大学・現代ライフ学部・講師 (32511)	
研究分担者	蔵谷　範子 (KURATANI NORIKO) (00320846)	国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・教授 (32206)	
研究分担者	渡辺　みどり (WATANABE MIDORI) (60293479)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	
研究協力者	相内　恵津子 (AINAI ETHUKO)	国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・助教 (32206)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	皆田　良子 (KAIDA RYOUKO)	国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・講師 (32206)	
研究協力者	矢代　実希 (YASHIRO MIKI)	宗教法人寒川神社寒川病院・看護部・看護師長	